会　　　議　　　録

１　会議の名称　　第５回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議

２　会議日時　　　平成27年８月26日（水）午前10時00分～12時00分

３　開催場所　　　岡谷市役所　９階大会議室

４　出席した者の氏名

（１）委員　　　小口泰史委員、早出隆幸委員、中村麻紀委員、浅井秋彦委員

大畠一洋委員、花岡欣二委員、中山昇委員、小池良彦委員

小山智委員、小野正行委員、薩摩建委員、横内敏子委員

久保寛男委員、太田博久委員、小林伊奈子委員

今井竜五委員、中田富雄委員、宮澤昇委員

（２）執行機関（事務局）小口明則、山岸徹、岡本典幸、小松秀尊、鈴木桂、相河美咲、内尾祟人

田村賢二、廣瀬智子、仲田健二、三澤達也、両角秀孝、名取浩

（３）その他　　(株)サーベイリサーチセンター　静岡事務所　田原歩

（人口ビジョン・総合戦略策定に関する調査・分析業務　委託業者）

５　議題

（１）「ひとの流れ」に関する意見交換（基本戦略２　岡谷ブランド発信戦略）

①移住・交流について

②意見交換

（２）「結婚・妊娠・出産・子育て・教育」に関する意見交換（基本戦略３　輝く子ども育成戦略）

①子育て支援、教育について

②意見交換

（３）その他

６　会議資料の名称

資料１　信州でさがして諏訪で暮らす。

資料２　子育て支援ガイドブック

資料３　第３次岡谷市児童育成計画　子ども・子育て支援事業計画（概要版）

資料４　第３次岡谷市児童育成計画　子ども・子育て支援事業計画

資料５　意見・質問等連絡票

資料６　第４回有識者会議の議事録

７　発言の内容

|  |  |
| --- | --- |
| 事務局  事務局  事務局  会長  事務局  事務局  事務局  会長  事務局  会長  会長  委員  会長  委員  会長  事務局  委員  会長  委員  会長  委員  委員  委員  会長  委員  会長  事務局  会長  会長  事務局  会長  委員  会長  委員  委員  会長  委員  会長  会長  事務局  会長  事務局 | （１　開会）  それでは、定刻になりましたので始めさせていただきます。本日は、大変お忙しいなか、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから、第５回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催いたします。会議の前に市民憲章の唱和を行いますので、恐れ入りますが、ご起立をお願いいたします。次第の裏に憲章文がございます。職員が前文を読みますので、私たちはからご唱和をお願いいたします。  （全員で市民憲章唱和）  ありがとうございました。ご着席ください。  （２　会長あいさつ）  続きまして、会長よりごあいさつをお願いいたします。  おはようございます。皆様には、大変お忙しいなかを第５回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。  前回の第４回の岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議では雇用を中心とした、しごとについての意見交換を行いました。その後、岡谷ブランドブックや岡谷市の観光の取り組みについて担当職員より説明を申し上げ、基本戦略２、岡谷ブランド発信戦略について議論をいたしました。本日は基本戦略２、岡谷ブランド発信戦略の続きとして移住・交流について、また、基本戦略３、輝く子ども育成戦略について議論をしてまいりたいと思っております。本市の移住、交流の取り組みといたしまして、首都圏在住の現役世代や学生を対象に工業振興施策や創業環境の充実など岡谷の魅力を発信し、ＵＪＩターンを促進する移住・交流、産業振興事業や県外で暮らす方に農業体験をしていただきながら、本市への滞在、そして生活する素晴らしさを体験していただく機会を設けております。また、移住促進の観点から、空き家の活用も考えていくべき課題と捉えております。議事の２つ目、結婚・妊娠・出産・子育て・教育についてであります。本市の子育て支援は、本年４月にスタートいたしました第３次岡谷市児童育成計画及び岡谷市子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育て支援策を総合的かつ計画的に進めております。具体的な内容につきましては、担当よりご説明を申し上げますが、これら子育て支援や少子化対策には引き続き力を入れて取り組みたいと考えており、地方版総合戦略の策定にあたっては、結婚から妊娠・出産・子育て・教育の分野についても幅広く検討をいたしまして、岡谷市の創生につなげてまいりたいと考えております。皆様におかれましては、この分野につきまして、どのようなお考えをお持ちか、お気軽にご発言をいただきたいと思いますのでよろしくお願いを申し上げます。このようなお願いを申し上げましてあいさつとさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。  本日は都合によりまして、笠原委員さん、中村文明委員さん、武田委員さん、伊藤委員さんがご欠席でございます。会議事項に入る前に資料の確認をお願いします。  それではお願いします。お手元、次第がございます。次第が１枚、その後、信州でさがして諏訪で暮らす。というカラーの冊子がございます。その後、意見・質問等連絡票がございます。ホチキスで左止めにしてあるものが１部、それと１枚のみというかたちで同じく意見・質問等連絡票がございます。続いて、会議録でございます。前回の、有識者会議の会議録でございますので、また内容等ご確認いただきまして訂正がございましたら事務局の方までご連絡をいただければと思っております。その後、次回の資料というようなかたちでございますけれども、第２次岡谷市健康増進計画概要版、それと第２次岡谷市健康増進計画の本編ということでお配りをしてございますので、よろしくお願いいたします。資料の方は以上になります。  （３　会議事項）  それでは、会議事項に入ります。今井会長、議事進行をお願いいたします。  それでは会議事項に入ります。会議事項１「ひとの流れ」に関する意見交換を議題といたします。始めに、移住・交流に関する取り組みにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。  （１）「ひとの流れ」に関する意見交換  （基本戦略２　岡谷ブランド発信戦略）  ①移住・交流について【資料１より説明】  ありがとうございます。ただいまの説明に対しまして何かご質問ですとかご意見がありましたらお願いをいたします。  【質問なし】  ②意見交換  次の移住・交流についての意見交換に入りたいというふうに思いますが、この部分、総合戦略としましては大切な部分だというふうに思っておりますので、このようなことを盛り込んでいったらどうかとか、このような内容があったらどうかなど、気楽なご発言を是非よろしくお願いをしたいと思います。  今、先ほど事務局の方からご説明がありましたので、これはこれでとても大事なことだと思います。私は少し違う観点での移住とか交流、主に移住という観点について、意見を申し上げさせていただければと思います。移住ということに関して１番の中心的なテーマになる部分として、雇用であるとか、それを推進するための産業振興だとか、これは当然大事なことだと思いますけれども、これを進めるにはやはり色々なかたちでこれから時間もかけながらということだと思います。それから１つ私が最近感じていることで、今すぐ、実は発信できる重要な要素があるのではないかなということを感じていますので、そのことについて申し上げたいと思います。それは最近色々なかたちで教育の関係なども携わらせていただいておりますので、このあとのテーマまで結びつくところかなと、関連するところかなと思っているのですが、実は、今まで会社と家とを往復しているという生活中心であったころには気付かなかった、実は岡谷市には安心で安全な子育てができる環境というのが実は非常にたくさん埋もれているなということに改めて気付かされています。たまたま、大変残念なことですけれども大阪の寝屋川であのような事件が起きました。これは確率の問題ということになるかと思いますが、おそらく今の岡谷市にはあのようなことが起こる可能性は極めて低いだろうなというふうに思っています。やはり生産年齢の世代に移住してほしいということはもちろんですけれども、そのときにやはり子育て世代というものに岡谷市に興味を持っていただくということを考えたときには、もちろん雇用、産業というものも大事なのですけれども、やはり人によって生きていくうえで、人生のうえで、自分たちの暮らしをつくるうえで何が大事かという価値観は若干やはり異なってくるだろうなというふうに思っています。そういう観点からしますと、もしかすると子育ての環境ということを発信するとそれがアンテナにとかかって、まずそれを最優先にしたいというような人も日本中には大勢いらっしゃる可能性があるのではないかなというふうに思います。その観点からいきますと、実は私も本当にここしばらくでようやく気付かされた部分なのですが、岡谷市の少なくとも小中学校の義務教育、それからそれを支える地域の区を中心とした、こちらに区長会長さんもいらっしゃいますけれども、力というのは、実は地味で表向きよく見えないのですが、非常によく色々なかたちで、特に安心とか安全という点では、色々なものが張り巡らされているということに改めて今気付いています。例えば小さなお子さん、乳幼児などでいきますと、それぞれの地区にボランティアでベテランの子育て経験がある方たちが色々なかたちで乳幼児を抱えたお母様たちを支援する、アドバイスをしたり、交流をさせたりというような部分もたくさん活動していらっしゃって、でもなかなかそのことがご存じない方も大勢いらっしゃるというふうに思います。そういう乳幼児のところから始まって、小中学校などはここで本当に他所、岡谷市以外の県内から異動されてきた先生方などにもすごくびっくりされるのですけれども、これは区長さんを中心とした区の力は非常に大きいと思いますが、通学路の見守り隊、これもここで完全に各地区の小中学校を網羅するかたちですべての学校に継続的に今後も見守っていただけるというかたちのものができあがってきました。それが今、機能を完全にしています。これはこの辺では本当に朝通勤をする途中で横断歩道のところに立って子どもの安全を見守る方たちがいる風景というものが当然のようになっているのですけれども、やはり県内、同じ県内でも外から来られた先生方はここまでしっかりしているところは他にはないということをやはり盛んにおっしゃる方がいます。ですのでその意味ではこれは非常に大きな力だと思います。それから給食のことに関していっても、各学校ですべて調理の先生、用意してくれる皆さんがいらっしゃって、手作りで提供できることが非常に大きい。これは一時、大阪だとか都市圏で、弁当もってくるだとか給食がよくないものがあって色々な議論がありましたけれども、そういうことからすると全く保護者としては安心して子どもの給食というものに関してはお任せができるという体制が整っている。あとはいじめとか不登校だとかというそういう問題についてももちろん全くないわけではないのですけれどもかなり割合としては低い、相対的に他の地域と比べると岡谷は低いというふうに思いますし、それから教育委員会のほうでも一校一校の、一人ひとりの状態、そういう不登校の状態になっているとか、あるいは少し様子が、このままいくともしかしたら悪い方向に発展してしまうのではないかというような状況をかなりやはり詳細に掴んでいまして、それこそ教育長さんのほうで一人ひとりの名前、状況というのを全部把握した状態で学校とやりとりができるというようなことがあるので、他所と比べると相対的にかなりいい状態になるのではないかなというふうに思います。そういうことをやはり岡谷市全体のなかで本当に区の力だとか地域の力を含めて、実は非常に子育て世代、特に義務教育、中学校を卒業するまでの子育てについての安心とか安全という部分についてはたぶん他所と比べたらかなりのレベルで充実した状況がつくられているのではないかなというふうに思います。ですので、この移住とかということを促進するという観点のときに、もちろんこういう雇用だとか産業だとか住まいだとか住む場所だとかということは大事なのですけれども、子育て世代ということに関していうと、やはり子どもをどのような環境で育てるのか、そういうことが非常に重要だと思いますので、この今の状態というのを何とか外に向かって発信をすることで、こういう安心して子どもを、少なくとも義務教育を卒業するまでは育てられるのだということは非常に大きなアピールポイントになるのではないかなと。あとは学力というところの向上ですね。揃えてくれば完璧かなと思っているのですけれども、こういう要素がやはりあるもので、これは今すぐにでも発信ができる、非常に重要な部分であるというふうに私は特に感じていますので、そのことを申し上げたいと思います。  ありがとうございます。委員さんから安全、安心な子育て環境がかなり充実している、あるいはこれから充実していくということをアピールして若い子育て世代の移住を促すという、非常に貴重な意見ですので１つのアピールポイントとしていければなというふうに思っております。その他にご発言等ございましたらお願いをいたします。  人口の流れという話ですので、少し理系の観点から話をさせていただきたいと思います。第１回目の資料の資料ナンバー５のところに岡谷市の人口の移動が書かれているのですけれども、１回目の説明のときには、転出者が多くてこれをどうにかしなければいけないという話だったのですが、資料を拝見させていただきますと、20代30代の多くの方々が岡谷市に転入してきている。同時に転出するのも20代30代。転入者、先ほども説明がありましたように、ターゲットは19歳くらいから50歳までの転入者を考えているという話でしたが、大きな移動というのはほとんど20代30代で、40代以降はほとんど転入してきていないというような話だったと思います。転出者が多いという話をずっとしているのですが、転入者も同じくらい入ってきていまして、４、５名くらいの差でしかない。もう少しあるかもしれませんけれども、それほど多くはないと思います。ここで何を言いたいかといいますと、20代30代の方が転入されているけれども、同じく転出されている方も多いというのは何か理由があるのかということを教えていただければと思うのですね。例えば、家を買いたいけれどもここは土地が高いのでそうすると安いところに移るということであれば土地の話になりますし、雇用がないという話になれば、雇用問題になってくると思います。繰り返しになりますが、転入者もかなり多いので、その方々をどうやって引き止めるかということを考えていかなければいけないのではないかなというふうに思います。次に転入者の話なのですけれども、先ほどこのパンフレットのところでも出ていましたように岡谷市だけ製造業という話になっています。私は工学部にいますので教え子とかあとは後輩とかがやはり都会に住んでいるけれども週末は長野の山に登りにきている。そういうときに、交通費も高くなりますので、できればこちらにきたいという人が多いです。ところが、自分自身の仕事が忙しくて、転入先を決めることができなかったり、あと中途採用の情報を集めることができないということがありまして、なかなか腰を上げて行動に移すことができないという人たちが多いです。ですから、このパンフレットに書かれている問い合わせ先に連絡をすれば、もしかしたら中途採用の情報も得られるのかもしれませんけれども、仕事と住居込みにしてインフォメーションをしていただければというふうに思っています。先ほどお話がありましたように、岡谷市は製造業が多いですので、製造業に中途採用で入って、それで自然のなかで住むというのが、そういう選択肢もあると。他の市町村の方々はやはり畑を耕したり、本当に自然のなかで暮らすという話ですけれども、やはり理系の方が多い世の中ですので、そういうことも考えて、岡谷市としては製造業、このまま進めていただければというふうに思います。最後になりますけれども、生坂村で去年ナガノアウトドアフェスティバルというのがありまして、私も参加させていただきました。どういうイベントなのかということを勉強がてら参加させていただいたのですが、私たちが普通に見ている景色なのですけれども、都会の方々はそういう簡単なアウトドアでも楽しんでいる感じがします。最終的には人数が多すぎてほとんどイベントに参加できないという方がいたのですけれども、ちょっとした自然、ちょっとした田舎の体験、そういうのを体験できるようなイベントがあると、今の移住ではなくて、観光という観点からいうと、ちょっとした自然を楽しむというイベントがあると都会から来る方が多いと思います。それともう１つ、製造業のことについていいますと、学会等で見学会を行いまして岡谷地域、諏訪地域の企業に見学に来ると、こんなにすごい技術を持っているのだとか、こういうことができるのだということで非常に驚かれます。こういう精密ものづくりについてアピールしていただきまして、その製造力をどんどん宣伝をして仕事、また、人が育っていくような場所にしていきたい。私も微力ながら貢献したいと思っています。以上で終わります。  ありがとうございます。アピールするということで少し事務局のほうから最初の部分について若い世代の移動についての分析についての意見をお願いします。  転入・転出の関係で市のほうでは市民課の窓口を使いまして昨年の８月から転出入の調査をかけております。そのなかでみますと、基本的にはやはり理由が１番多いのが仕事の関係というのが非常に多いようなことから、たぶん20代30代の方たちは転勤等の関係で転出・転入が多いのかなと。そのなかでも特に単身世帯が非常に多いものですから、そういったものが影響しているのかなというふうには分析しております。それとまた次回には何とか人口ビジョンの関係でお出しをしたいと思っておるのですけれども、人口ビジョン策定のなかにも移動の調査をしていまして、やはりそのなかでの理由としてもやはり自分の仕事の都合がトップにきておりますので、岡谷市の場合には製造業中心のものづくりのまちでありますので、そういった理由が１番かなというふうに思っております。あと女性が結構転出が多いのですね、岡谷市の場合は。この部分についても、どちらかというと理由のなかでは自分の仕事という部分と結婚というのがありまして、やはり結婚で外へ出ていってしまうという人もなかにはいらっしゃるのかなというような今、分析をしているところであります。  岡谷ブランドとひとの流れということで考えてみたのですけれども、先ほど岡谷市の製造業の説明にもありますように、確かにものづくりは進んで、素晴らしいと思うのですけれども、ただ精密機械とか製糸業というだけでは、そういうイメージだけでは少しインパクトが弱いのではないかというような話も感じたり、人に言われたりしています。私も勉強不足でいけないのですけれども、例えば岡谷市には素晴らしいものづくりに対しての技術を持っているわけですので、少し主人と考えてみたのですが、うちの主人はリタイアしてから十何年にもなるのですが、友達が自営業をやってらして、何か仕事はないかとしょっちゅう言われるのですね。そういう比較的少人数での仕事をしている人たちが結構岡谷に多いと思うのですが、そのなかで今現在本当に仕事がなくなってきて困っているなというような、今までと同じような仕事をしていたのではだめではないかという話を夫と考えてみたときに、これはある意味夢の部分ですが、これからは福祉とか介護にもロボットが進出してきているという、よくテレビなどでも見ているのですけれども、そういう意味で岡谷市も岡谷工業という学校のなかでもロボットに関する色々なことをやっていることも聞きますし、大会にも出ているのかなとか思うのですけれども、そういう意味で、今後ますます高齢化とそれから介護が必要になってくる人たちに対して、ロボット産業というか、そういう既にやっていらっしゃる、色々な意味で部分的にやっていらっしゃる企業もあると思うのですけれども、これから１つ目立つ、インパクトを強くするために、県内外にアピールしていくためにも、ロボット産業というのに力を入れていかれたらいいかなというのが私ども夫婦の結論といいますか、夢であります。これはすぐに実現する、軌道に乗ってどうのこうのということでもないと思うのですけれども、岡谷市のイメージアップのためには、ものづくりのまちだということでそれをアピールできたら、将来的にこれは必要になる産業だと思いますので、そのようなことを少し提案させていただきたいと思います。それからやはり魅力的な岡谷市ということになると、もう１つ、ちょうどここで10月に岡谷市の岡谷市民病院が開院するわけですけれども、岡谷市に素晴らしい病院ができて、安心して病院にかかる、あまりかかりたくはないのですけれどもかかったり、子どもを産んだり育てたりするのにやはり病院というのはとても大事なところだと思うのです。それで岡谷市民病院がさらに充実していけば、ああ岡谷市内にはこういういい病院があるのだと、では岡谷に住んでみようかとか、そういうようなことで移住をする方も出てくるかな。それから結婚して岡谷に住みたいなというような、今現在、今の病院は産婦人科が休診していますね。そのようなことも含めて、やはりアピールするものが他所よりもあるということをやはり前提にしていくと、これからの若い人も移住するかなというようなことを思っています。それからもう１つ、岡谷市民は働く場は確かにあるのですけれども、住んでいる若者たちが、家族を含めて余暇に利用するのに、若者、それから家族を含めて、遊ぶというかレジャーというかそういうところが、楽しめる場所が少ないというのはよく大勢の皆さんに聞かれます。ここにも少し写真が載っていて、それぞれのうなぎのまちとかそれから太鼓まつりとかそういうことがあるのですけれども、やはり若い人たちとかその家族がそこに行けば楽しめるというところが何か所かあれば、それもひとつの岡谷の魅力になるかなと思うので、そのようなこともこれから考えて、今までも考えていないというわけではないのですけれども、さらに考えていただけたらと思います。  ありがとうございます。今、ロボットという話が出ましたが、製造業のほうから少しお話をいただきたいと思います。  ロボットというと、インダストリーさんが一生懸命、ドローンを一生懸命やっています。しかしロボットというのは非常にお金もかかって開発費の関係で中小企業にとっては非常に荷の重いものかなというふうに思っております。これからどんどん高齢化が進んでいって、もうじき500万人700万人という人が高齢、認知症も増えてきてという状況になってきているようです。それに対しまして、私ども、ロボットとはいえないのですけれども、トイレットペーパーの三角折りをつくっていまして、こうやって引っ張ると自動で三角形が折って出てくるのですね。そうすると人が触ったところ、他の人が触ることがないでしょう。色々な人がおりまして、人が触ったトイレットペーパーに触りたくないねというそういう潔癖症の人もいらっしゃるし、もう１つは介護のとき、半身不随の方などは両手でトイレットペーパーを出せない、そういうときは片手で出して切れてということで使いやすいとか、それから病院などはやはりある種のウイルスを持った人がおられるわけで、そういう人がトイレットペーパーを触ることによってそのウイルスの潜入ということがありますし、それから給食を扱っている、食品を扱っているところ、食事を扱っているところもやはりそういったO-157のようなウイルスを持っている人があった場合にはトイレットペーパーから伝染しているということが相当多いわけでございます。ロボットといえるかわかりませんけれども、そのようなことも私たちも一生懸命やっていますし、他の事業所さんも一生懸命取り組んではいます。それから自分の宣伝みたいで申し訳ないですけれども、やはり自分たちがつくって自分たちの価格設定でものを売れるというものをこれから我々製造業もやっていかなくてはいけないかなというふうにひしひしと感じます。今、岡谷精密という会社がありまして、そこはイヤリングですか、キャッチというのをつくっている会社ですね。それは非常におしゃれであって、大変好評のようでございます。それからコマ大会、コマを一生懸命やっていただいて、結構売れているようでございまして、そのようなことでいわゆる受動的なものづくりではなくて自発的なものづくり、ベースはきちんと持っていると思うのですけれども、そこまで行きつくまでの仕組みが問題だとか色々あるものですけれども、そのようなことを言っていても始まらないものですから、銀行団の皆さんも一生懸命いらっしゃいますけど、やけくそで私もやっていますけれども、ある意味開き直りと、将来に夢を持てる、そういった地域、産業界であってほしいなというふうに思っていますし、幸いにこの地域まだ数百社製造業が残っているものですから、そういう人たちが生き残れる、またそれがないと他の大手さんがいらしても、その会社さんのニーズに応える、提供できるものがないとその会社さんも困ってしまうものですから、やはり産業というのは集積地でなければいけないと思っております。広い田んぼのなかに一軒優秀な会社があるよりも、色々の業種の皆さんがこの地域に集積していることが大切だなというふうに思います。それから諏訪地域というのは私の気持ちとしては合併というのが非常に望ましいと思っているのですけれども、その合併の目的としては色々の要素、必要な要素があると思うのですけれども、私が１番いつも感じているのは、若者が誇りを持ってこの地域にいるという、若者が誇りを持ってこの地域に住めるという場所であってほしいなと思っているのですよね。長野県のなかで諏訪、岡谷というのは皆知っています。東京へ行ったら岡谷より諏訪といったほうがわかりやすい。あるところで言われました。岡谷に知り合いがいると言ったら岡山ではないのと言われたらしいのですね。それくらい、まして、日本だけではなくてこれからのグローバル世界のなかで、海外に行って、岡谷など全く知らないのですよね。長野県といったらオリンピックがあったもので多少知っているかなということで、私もソーデナガノという会社に変更したのですけれども、どうもそれも若干薄れてきてしまって今度消えてしまうかなと。そういった意味で、若者がこの地域に住んでいて、本当にプライド、誇りを持って私たちここで生きています、ここで仕事をしています、生活をしていますというものにつなげる意味での大きな行政体にしたほうが、知名度が上がるかなというふうに思っております。私たちの資産を岡谷市にとられてしまうのではないかなというふうに思っているような節はあるのですけれども、私たちはそれはいらないですというのも言いながら、もっと若者がこの地域に住んでいます、生活しています、活躍していますというのがいいかなと思います。私正直なところ、このまち・ひと・しごと総合戦略、新聞をみていると日本中でやっていて、そのなかでみますと、東京一極集中が悪いことばかりではないというような、おもしろくないなと思って見ていたのですけれども、やはり首都圏に行く皆さんが４時間も５時間も行くというのは大変だと思うのですよね。やはり２時間以内で行けるところ、なおかつそういう田舎生活もできますよみたいなのが重要ではないかなというふうに思いまして、ということは松本まで２時間を切ってくれるようなことができればいいのではないかな。それはこの地域の全員の要請、相当大きな力を働かせれば可能性はあるのではないかなと思うのですね。中央線の複線化の対応もあると思うのですけれども、そういったことはしなくてもダイヤの編成によって十分対応できるかなというふうに思います。しかしながらこの地域、山梨県から長野県がもっともっと力をあわせれば十分可能ではないかなというふうに思います。一部のそういったものを改善、改良することによって十分可能だなというふうに思いました。先ほど生坂村の話があったのですけれども、まだまだ岡谷にもたくさんあるのと思うのですよね。１番良いのはやはりやまびこ公園、屋外演奏場というようなものがありましたよね。あれは何か使っているのですかね。若者のロックバンドとかに来ていただいて、環境的に色々あるのかもしれませんけれども多少若者にとってみればそういったアバンチューラーみたいなところもないと、健全だけでは若者が集まらない、そういったイベントが最初は観衆、お客さんも入らない、それほど見えないとは思うのですけれども、サイトウキネンフェスティバルではないですが、回を積み重ねることによってそこに参加してくれる若者、バンドというのですかね、ああいうものも来てくれるようになるでしょうし、そしてもっと広い地域からお客さんも来ていただく。当然それに対しまして、そうするとこの地域ももっと、宿泊だとか観光につながってくる。もっともっと私たちはやることがあるのではないかなと。何か１つの引き金、トリガーに対してある程度集中と、継続性をよくやっていけば、まだまだいけるのではないかなというふうに感じました。  ありがとうございます。色々なところに関わる発言かなと思っています。ロボットのほうから話が始まりまして、ロボットは実はやはり介護、福祉で出している企業が何社かあります。そういった部分も成長分野というふうにいわれておりますので、資金が必要だという話もありますけれどもそういったご支援もできればというふうに思います。それから私どもも松本新宿間２時間、山梨そして長野県とともに力を入れるようお願いをしているところでございます。ただ、今リニアのほうに目が行ってしまっているものでありまして国全体が。中央東線、忘れないようにというお願いをこれからもしていかなければいけないというふうに思います。それから先ほど病院の話をしていただきました。本当に都会の人がこちらへ移り住んだり、そういったときの１つの条件としまして総合病院があるかないかというのは大きな要素だと。もう１つはもちろん教育、働く場、そしてもう１つは楽しい場、４つは必要かというふうに思います。そういった意味で病院のほうも力を充実していかなければならないと思います。産婦人科につきましては今、分娩が休止になっていまして、婦人科とかはきちんと継続してやっておりますのでよろしくお願いしたいと思います。分娩のほうを何とか再開になるように努力してまいりたいとそのように思います。よろしくお願いします。他にございますか。それでは意見をいただいております委員さんのほうからご説明をお願いいたします。  今の流れからいうと少し過去へさかのぼってしまう、言いそびれたかなというところで意見をありましたのであげさせていただいているところで２点あります。１つは仕事についてというところで、ここは今日のお話のなかで言われていたのと近いところですが、初回にも話したのですがＩターンやＵターンを確保することが１番やりやすいのではないか。やはり子どものころにこの地域にいるのでこの地域に対する、先ほどお話もありましたように、対する愛着といったものがつきやすい、そういった人たちが都会へ行っても地元へ帰りたいと思う、特に地元の企業に就職したいと思ってもらうことが１番やりかたとしてアプローチしやすいのではないかというところを少し感じたのでその辺を書きました。１つ、諏訪市のほうの方、団体の方で最近動き出しているなかで高校生に対する企業紹介とか高校生の就職に向けてだけではなくて大学に進学するという方を含めて高校生のときに地元にはこういう企業があるのだということを説明して知ってもらうことによって高校生の方々が地元の企業に興味を持つ。それによって大学に進学する内容の、例えば夢物語になってしまうかもしれませんがその中でこの会社に入りたい、この会社に入るために大学へ行って勉強するのだというくらいまでなってくれれば１番素晴らしいのですが、それに近いかたちも何かやっていくうちにあるのではないかなと。その諏訪の団体の方とも話したのですが、単なる就職説明の場、人事の担当の方がきて就職説明の場であっても、なかなかその会社の思いというか、作っている表面的なものはあるかもしれないですけれども、その会社として何故それを作っているのか、そういった部分を語れるのは社長であり会長であり、そういった創業に関わる人たちの声が大事かなというところで、その社長が熱い思いを高校生たちの前で語って、たくさん面白いものをつくっているのだよという話をするような場があれば、高校生のときに地元の企業にこんな面白いところがあったのだというかたちにつながるのではないかということで、そういったことで１つ書かせていただきました。その延長にはなるのですが、大学生を見ても、なかなか大学生自体が就職活動として会社に目を向けるのが３年の後半になってからようやく動くというのが多分多いというなかで、もっと早い段階、１年、２年大学に入ってすぐの段階で、企業を知ってもらうことによって、この先でいざ就職活動となったときにもそこが頭のなかにある、という流れのなかで、戻ろうかなというようなことにつながるのではないか。そういったかたちの就職説明会ではなく企業紹介のような場、そういったものにつなげていけるのというが、Ｕターン、戻ってもらえる、プラス大学であればＩターンＪターンといったところもプラスされると思うのですが、そういったところは早い段階で子どもさんたちに企業を知ってもらう、興味をもってもらうという流れが結果的にいいほうに転んでいくのではないかなということで書かせていただきました。もう１つ、ひとの流れということで、前回、ブランド化のなかでシルクを１つのテーマとしてやっている、その流れのなかで信州シルクロードというかたちに、こちらの横浜港だったりそういったところとつながりをもって大きな展開をというようなお話があったので、やはりそういった大きな展開になってくると海外観光客、今のインバウンドの部分で非常に多くの方が入ってくるなかでは、アジア圏の方々がやはり多く増えてきているというかたちですね。岡谷に関しましても、英語の観光パンフレットのほうは作成されたというような流れのなかで、これから多国語化の展開もされていくのかなとは思ってはおりますが、そういったところ、１つの顧客の流れ、観光客の流れ、またここで消費してもらうといったところでは、インバウンドはどうしても外せない要素かなと思っていますので、そういった部分の力の入れ方も、今後増えていくといいかなということで書かせていただいております。また消費してもらいやすい観光、おみやげ、飲食にうまくつながっているかたちというのも、まち歩きというかたちでやってもらうのが１番いいとは思うのですが、なかなかそれも市全体の協力といった部分も必要かと思うので、ある程度集中してどこかをしっかりというところがスタートであるかたちでもいいのかなというところで１つ意見をあげさせていただきました。以上です。  今の委員さん、それから前回皆さんのおっしゃったこととかぶってしまい、誠に申し訳ないのですが、それとまたもし施策として既にされているということでしたら、またお許しをいただきたいと思います。数点ほどすみません、意見要望ということで申し上げさせていただきたいと思います。まず岡谷ブランドということで前回諏訪湖をブランドとする場合、現状でどのくらいというか、汚染というものが矯正ということで出たのですけれども、環境汚染を矯正する必要があるというふうに、それが絶対条件というようなお話で、再三、諏訪湖浄化は数年前というか十数年前から言われているわけですが、浄化を待って観光客の呼び込みを行うということは、時間的に余裕がないかなというふうに思うものですから、同時並行として、観光客の呼び込みを環境汚染の解消とあわせて行いたいというふうに思います。それで、１つのご提案がございます。全国的に諏訪湖の知名度をさらにアップするという目的もかねて、ファンドの組成というのが具体的にできるかなというふうにご提案させていただきます。もちろん諏訪湖の水が流れていますので、岡谷市ばかりではなく諏訪圏域、それと当然長野県ということで、同調したかたちでファンドの組成というのはできないかご検討いただきたいと思います。それとあとは若者のＩターンの推進施策のひとつというところで、転出した学生、大学で首都圏とか名古屋、大阪などの大都市へ転出した学生に対して、継続的に岡谷市の広報誌を発送すると。目的として離れた場所でも岡谷や諏訪地方のことを思い出してもらって、将来岡谷に戻りたいというきっかけにするということで、内容としてイベント紹介、Ｉターンした先輩市民にインタビューをして、先ほど他の委員さんからもありました、企業紹介というものを載せてはどうかと。広報おかやも31ページもある立派な内容なのですけれども、それほど厚くなくてもいいと思うのですけれども。それともう１点ですけれども、岡谷市有地の有効活用ということなのですが、先ほどありました楽園信州というカラー刷りのパンフレットをみますと、土地の価格帯ですが、岡谷市が１番幅広くなっていると思うのですね。４万から22万ということで、１番安いところで４万、高いところで22万ということなのですが、そういった安いところがあればと思うのですが、そのなかで例えば市有地で現在、使われていないような土地がもしあれば、分譲地にして提供する。それで住宅地として取得した場合は、固定資産税の減免ができないかというふうに思います。私、川岸に住んでいますけれど、例えば昔、中尾とか高尾とか市営の団地がありまして、それが可能かどうかは別ですけれども、そういうようなもし土地があれば有効活用のほうをご検討いただきたいというふうに思います。以上です。  私の意見も前回の岡谷市のブランド戦略というところで少し書かせていただいたものですが、最初に諏訪湖の浄化ということで、今も話にありましたけれども、やはり進めていかなければいけないと思います。それから、２点目につきましては、生糸のまちシルク岡谷というところですけれども、観光客、一般の人はやはりシルクというと最終的な絹織物というところを意味するのではないかと思うのです。岡谷の場合、糸をつくるというところはあるのですけれども、最終製品ということになりますと、織物というところまでは商品ができているという状況ではないと思いますので、できれば新たにこの絹織物の産業を誘致というか公募しまして、最終製品をしっかりしたものをつくって観光客にアピールする、そういったことができれば、生糸・シルクのまちとしてのブランド価値が高まるのではないかと考えます。また新たな産業というか織物を誘致できれば、そこに携わる人たちも移住という観点では増えていくのではないかというふうに考えて意見を出させていただいたところでございます。  それぞれに色々な意見、ご提言をありがとうございました。また総合戦略の参考にさせていただきます。諏訪湖の浄化、ちょうどご意見いただきまして、県の地方事務所のほうでも非常に来年は力を入れていこうということで提案をしていて、少し説明をお願いできますでしょうか。  諏訪湖の浄化の関係ですけれども、私は３月までは長野で４月からこちらになりまして諏訪湖畔に住んでいますので、この諏訪湖周に住んでみて、水のある生活空間というのは非常にやはり癒されるのだなということで、諏訪湖というのは非常に重要なものということを再認識いたしているところでございます。そのようななかでなかなか綺麗でないという声も聞こえます。県も今までも、諏訪湖の浄化ということには取り組んでいるのですが、できた部分、さらにまだまだ全然足りない部分がありまして、その辺も、来年に向けてまた一層取り組んでいこうと。実はここでそういったご指摘をいただいたのも一因としてありまして、来年度の事業にしても、地方事務所のほうから県庁のほうに、諏訪湖の浄化についてはこのようなことをやりたいのだというような提案をしていきたいなということで、実は先週も、市長さん、６市町村の首長さん方にお集まりいただいて、意見交換をさせていただいて、一生懸命取り組んでいきたいというふうに思います。  ありがとうございます。また６市町村でも協力しようというお話だったのですけれども、皆さんにもよろしくお願いしたいと思います。その他にご発言、ご意見お持ちの委員さんいましたら挙手をお願いします。よろしいでしょうか。  それでは時間の関係もありますので、次に会議事項２の「結婚・妊娠・出産・子育て・教育」に関する意見交換を議題といたします。始めに、子育て支援と教育支援、第３回のときにご説明をいたしました総合戦略骨子案の基本戦略３、輝く子ども育成戦略に関わる個別計画や資料として第３次岡谷市児童育成計画、子育て支援ガイドブック、教育に関する取り組みにつきましてまず事務局から説明をさせていただきますのでよろしくお願いをします。  （２）「結婚・妊娠・出産・子育て・教育」に関する意見交換  （基本戦略３　輝く子ども育成戦略）  ①子育て支援、教育について【資料２、資料３、資料４より説明】  ありがとうございます。こういうふうな計画を駆け足での説明で大変申し訳ないと思います。このことにつきまして、何かまずご質問、ご意見等がございましたらお願いをします。  【質問なし】  ②意見交換  それでは意見の具体的な交換をするなかで、色々なご意見だとか発言をしていただければというふうに思いますがそれでよろしいでしょうかね。そういう進め方でお願いをしたいと思います。まず最初に欠席をした方からご意見や質問票について配ってありますので事務局のほうから説明をお願いいたします。  【意見紹介】  お願いします。それでは意見・質問連絡票のホチキスで留めてあるものの１番最後のページになります。欠席の委員さんからご提出いただいた意見・要望等でございます。今、ご説明をいたしました計画のなか、子ども・子育て支援に関するアンケートを見る限り、「満足している」「やや満足している」というものをあわせますと47％、「どちらともいえない」というのが38％になっているということで、満足している部分、不足している部分両方あることから総体的に判断し、「どちらともいえない」と答えているのかもしれないと。というようなことで、そういったものもありますけれどもそのなかで、市民の意見、要望についてということであります。このなかで先ほども委員さんのほうからもありましたように、周知、情報発信というものを図るべきではないかということで、広報誌またガイドブック、ホームページやメールマガジン、シルキーチャンネルなど、市が独自で情報発信する媒体は揃っていると。特にシルキーチャンネルについては、その存在自体を知らない市民がまだ多いのではないでしょうかということであります。子育て支援サービス等の情報発信とあわせまして、こういった媒体の周知も必要ではないかというご意見があります。またその計画のなかのアンケート結果からということで、「子どもと過ごす時間や会話が少ない」だとか「子育てに対する職場の理解が少ない」と答えた方が多くなってきていると。市が行っている施策の検証においても、働く場における子育て支援の評価は、1.5と低い数字となっていると。こういったことから、各企業においても子育て支援や環境の整備は必要不可欠なこととなっていると。市としても各企業に対する支援や働きかけ、市が行っている様々な子育て支援サービスのさらなる充実を図っていただきたいということでご意見をいただいているところであります。  ありがとうございます。委員さんからこのようなご意見をいただいたところでございます。それでは今説明のありました子育て支援、教育につきまして総合戦略でどのようなことを盛り込んでいったらいいか、このような内容はどうかといったことがありましたら、何でも結構でございますので、気軽なご発言をお願いしたいというふうに思います。  名指しで申し訳ありませんけれども、委員さん、最初の会議のときに、私がショックを受けたのは、第一子のときにこそ支援をすべきではないかというようなご指摘をいただきましたね。あのことについてもう少し感想でいいので、思っていることをお聞かせいただければというふうに思います。  やはり第一子を産むということがすごいハードルが高いと思うので、第三子よりか第一子の分娩から育てて保育園に上げていくという大変さを考えると、やはり保育園の保育料を安くするとかしてもらうとすごく助かると思いますし、うちは自営だったのですけれども、保育料が前の年の収入で決められるのですけれども、その年はすごく良かったのだけれど、今年全然だめということが結構あって、何度も市に色々相談したのだけれど、決まりなのでということで結局保育料を払えていないというようなことになったりとかしたので、そういう保育料のことをもう少し検討してもらいたいと思います。  ありがとうございます。確かにそういうふうばかりでもなくて、色々なことで不安のある第一子かなというふうに思いますので、そのような部分で考えていかないとならないのかなと、ある意味ではパンチをくらったかなと。子どもの数を増やすということだと第三子とそればかり私たちも思っていたものですから、そういった観点も必要かなと思いました。  岡谷市さんの支援の内容を拝見させていただいていますと、プライベートなことですが、子どもがいないものですから、思うのですけども、子どもがいれば本当に安心して育てられる環境というものをだいぶ整えられているなというふうに感じて拝見をさせていただきました。ただやはりこれだけ充実した制度というか、ある前段でやはり結婚があり、出産があるという、やはり対象となる子どもがいないと始まらないことであると思っておりますので、やはり晩婚化の話、出生率の話がありましたけれども、やはり１番スタートとなる結婚であったり、出産に至るまでのところを、もう少し充実することも大事なのではないかなというふうに、拝見をしながら感想をもちました。私自身はかなり結婚が遅くて、実はプライベートなことであれなのですけれども、治療等をしておりましたが、なかなか子どもに恵まれないという状況があったのですけれども、そういったときに、今こちらを拝見していると相談窓口を設けられたりとか色々あると思うのですけれども、やはりかなり費用面、それから精神的な面もかなり大変な部分がありますので、やはり前段の部分でもサポートを是非お願いをしたいなということで、私のほうの実体験からなのですけれども、支援ブックを拝見させていただくと９ページに不妊治療等に関することというところで、岡谷市さんの助成のことがあったのですけれども、助成期間が１年度の助成回数１回という部分がありまして、金額のほうも書かれていますけれども、結構治療を始めますと、１年に何度もチャレンジというか頑張って、何とか子どもがほしいと思っているご夫婦は１年に１回どころではなく、何度も挑戦されているので、この辺りが、いわゆる晩婚化が進みますとやはり妊娠できる確率というのは１年ずつどんどんどんどん減っていってしまっているので、やはり本当にほしいと思っているご夫婦は、その限られたなかで何とかほしいと治療を頑張っていらっしゃいますので、こういった部分で１年間に１回ではなくて、もしできるのであれば、もう少しその回数を増やすですとか、金額の面も色々とあると思いますけれども、かなりの金額の負担がかかることでございますので、そういったところでも充実していただければ、より安心したなかで治療ができるのではないかなというふうに思っております。  少し脱線した話で申し訳ないのですけれど、私どもは約300人弱の小さい職場なのですが、そのうち女性職員が150名ほど勤めていただいています。それで今年につきましても、約20名弱、当職場に入社してもらったのですが、そのなかで各企業の皆さん、企業報というか社内報を発行されているかと思うのですが、そのなかで今年入った新入職員にアンケートをとっているのですけれども、そのなかで10年後あなたはどうしていますかというアンケート項目がありまして、女性職員のほとんどが、10年後、子どもをつくって幸せな家庭をもって、信金に勤めていますというような、リップサービスもあるかと思うのですが、そういうような、後半はかなりリップサービスだと思いますけれども、勤めて幸せな結婚をして、子育てをしながら勤めていますというようなアンケート結果が約８割程度、そういう人がいました。ですので、その一方で晩婚化とかそういった話があるわけですけれども、決して結婚とか子育てに対して、若者は悲観的な見方をするわけではないかなというふうな感想を持っているものですから、ここからは要望なのですけれども、是非出会いから始まって、結婚、出産、それから子育てについては一連の流れで支援策を是非していただきたいというふうに思っております。それと、もう１つ、婚活関係でいくと、私たちは女性が多い職場なものですから、別の企業から、男性の皆さんを用意するから、信金さん、女性の職員の皆さん何人かお願いしますというような要望がありまして、お見合いというか、めぐり会いの機会を用意させていただいている状況なのです。それで、単発的にやっていても、結婚相談所とかそういうものがあるかなと思うのですけれども、是非そういう組織だった結婚相談所的なものができないかなというふうに思います。北海道には信用金庫自体が結婚相談所を営んでいるような信用金庫もあるものですから、その辺は難しいとは思いますけれども、是非お願いします。  ありがとうございます。婚活につきましては、自治体も正面から捉えなければいけない問題だということで推進しているところでございます。ただ、小さい範囲だと参加してもらいにくいものですからその辺りは６市町村広域連合のような、もちろんそれぞれの市町村でも取り組みますし、色々な団体でも取り組んでいただいているのですけれども、広域で取り組もうとして提案させていただいているところでございます。そうしましたら参加者が多いということでありますね。色々な会社でも婚活のなかにありまして、そういう機会をつくっていきたいと思います。また企業同士でという話をこれからまた色々教えていただきたいなとそのように思います。よろしくお願いをしたいと思います。それで１番最初に委員さんから、結婚しても働き続けられる職場環境の整備に真剣に取り組んでいかなくてはならないのではないかなと。これは企業の経営の皆さんのご理解とご協力をいただくなかでそういうことも推進をしていかなくてはならないのかなと、そういうふうに思っているところでございます。またよろしくお願いしたいと思います。  またこれも提案なのですけれども、６月12日付の某新聞に、山梨県の富士吉田市のことが少し出ていて、私は結婚についてのことでお話をさせていただきますが、新婚家庭の家賃を支援するという記事が載っておりました。岡谷市は、また勉強不足で申し訳ないですがやっているかわからないけれども、これは少し参考になるかなと思い簡単にお話ししたいと思うのですが、まず新婚家庭の家賃を補助する、支援するということで、数字的にはたくさんあるので言い切れないかなと思うのですけれども、結婚１年以内の夫婦を対象にして家賃月15,000円を上限に３年間補助するとか、中古物件をお借りしたときにも少し補助するとか、そのようなことが出ておりました。それで私がいつも通る道に保育園があるのですが、保育園にお母さんが送っていく姿をよく見かけるのですが、１番上の子どもさんが保育園児で、真ん中の子が手をひいて歩いているのは２才か３才くらいのお子さん、抱っこしている子どもさん３人を連れて保育園へ通っているのです。このお母さんは、家族、親のいるところに住んでいるのかな、それとも核家族でどこか、家賃を払ってどこかうちを借りているのかなとか、いつも見ているのですけれども、本当に３人の子どもを育てているそのお母さんに私は頭が下がります。早く結婚する人はするので、やはり生活していくうえで家賃というのは非常にお金を払う段階では大変なことだと思うのです。それで、この制度が、岡谷市がやっているかどうか、それからすぐこれから実施していくのかどうかということもわからないですけれども、ある意味で結婚を進めるためのこの新婚世帯の家賃の支援というのは１つの結婚を推進するための、何かその問題点をクリアするための１つの施策になるのではないかなと思っておりますので、提案させていただきます。以上です。  家賃補助というのは岡谷市では現実として実行をしておりません。それはまずやっているかやっていないかというお答えですけれども。また今いただきましたご提言ということでございますので、市のほうでどんなことが、なかなか予算が絡む問題ですし、期限の問題があったり、上限の問題で色々あるということで検討させていただくというようなことでよろしくお願いしたいと思います。その他に発言ございますでしょうか。このことに関しまして色々とご意見等ございましたら、お寄せいただければというふうに思います。ご意見お寄せいただきまして、それをもとに次回もお話し合いができればというふうに思っていますので、よろしくお願いをしたいと思います。  （３）その他  その他に皆様のほうから何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは事務局のほうありますか。  今それぞれ委員さんのほうにペーパーをお配りしましたので、またご意見等ありましたら、記入等いただきまして、こちらのほうに提出していただければというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。あと次回につきましてですが、次回は９月30日ということで、若干時間があいてしまいますけれども、９月30日、場所につきましては、９階大会議室、ここの場所になります。時間につきましては午後３時からということでございますので、よろしくお願いいたします。以上であります。  そのようなことでまた次回よろしくお願いしたいと思います。それでは本日の会議事項を閉めたいと思います。ありがとうございました。  （４　閉会）  以上をもちまして、第５回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了といたします。ありがとうございました。 |

上記に相違ないことを確認する。

会長　　今井　竜五